朝日新聞 Reライフ 人生充実 FESTIVAL

好きなこと 人生のパワー

朝日新聞「Ｒｅライフ」連動イベント開催

50代からのアクティブ世代を応援する「朝日新聞Ｒｅライフフェスティバル」が２月27日、東京・日本橋のロイヤルパークホテルで開かれた。月曜朝刊「Ｒｅライフ」のページと連動したイベントで、昨年に続き２回目。2550人が来場した。元プロ野球・広島カープの衣笠祥雄さんと山本浩二さんのトークショーや作家・浅田次郎さんの講演会、マラソンランナーの谷川真理さんの講座などがあった。

時代小説「空前のブーム」

浅田次郎さん、江戸時代を語る

小説「壬生義士伝」などで知られる作家の浅田次郎さんは「時代小説の基礎知識」をテーマに講演した。

まず、時代小説の現状を「空前のブーム」と表現。現代小説は、携帯電話の登場で見せ場である恋人同士のすれ違いが成立しにくくなったとし、「読者はロマンチックなものを時代小説に求めている」と話した。

「明け六つ」「暮れ六つ」といった時代小説に出てくる言葉や、江戸時代の尺貫法が現代に残る例なども説明。熱心にメモをとる来場者の姿もみられた。

徳川家康について、小田原征伐の後、豊臣秀吉から関八州に行くよう命じられた経緯を「日本史上最大の左遷」と例え、その後すぐに江戸に入って水道などのインフラを整備し、江戸を都市化したことを評価した。

さらに江戸時代の約270年で戦争らしい戦争がなかったことについて「世界の人類史をひいてもなかなかない。戦争をしない時代をつくる、この考え方が家康の最大の遺産ではないかと思います」と語った。

夢と友達で毎日明るく

衣笠祥雄さん 山本浩二さん

衣笠祥雄さん（左）と山本浩二さんのトークショー。丁々発止のやりとりに観客席が沸いた

元プロ野球・広島カープの「鉄人」衣笠祥雄さんと、「ミスター赤ヘル」山本浩二さんが「優勝」について語った。

衣笠　カープの優勝を見ることはもうないと思っていた。優勝パレードを久々に見られてうれしかった。

山本　これまでの優勝は選手や監督として現場で経験し、去年はファンのみなさんと一緒に一喜一憂した。ただ、優勝マジックが点灯してから簡単に進んだのは気に入らないね（笑い）。苦しむほど、勝った時の感激は大きいから。

衣笠　僕たちが初優勝した1975年は本当に苦しかった。リーグ優勝を決めたのは130試合制での129試合目でした。

山本　キヌとは同学年でライバル。入団はキヌが4年早かったけど、負けたくない気持ちがあった。初優勝するまでは、ユニホームを着ている時しか話さなかった。

衣笠　カープと言えば衣笠だった頃もあったけど、「ミスター赤ヘル」が出てきた。でも浩二がいなければ優勝はできなかった。

山本　互いを鼓舞する存在だったよ。当時は地元ファンからのプレッシャーがすごかったな。地元の店でお酒を飲むと、お客さんから話が伝わって、翌日球場で「お前らは毎日飲んで！」とファンに怒られる。でも褒めてもらいたい気持ちが成長につながった。今は、選手をやじる人をカープ女子が止める（笑い）。

衣笠　今年、カープのセ・リーグ優勝の可能性は60％くらいかな。黒田（博樹）が引退して、若い投手の精神面が心配。楽しみな投手は岡田（明丈）ですね。キャンプをみた限りでは、Ａクラスの可能性が高いのはヤクルト、ＤｅＮＡ、広島。

山本　カープの野手だと「神ってる」鈴木誠也がいい。優勝の確率は70％くらい。ＡクラスはＤｅＮＡが勢いあるね。予想なんてあてにならないけど。

衣笠　皆さんに伝えたいのは、夢を持とうよ、ということ。子どもだけじゃなくて我々の世代も夢を持たないと世の中が明るくならない。

山本　友達をたくさんつくって会話をしましょう。声を出すと気持ちが前向きになって行動力も出ます。お互い長生きしましょう。

正しい歩き方講座

谷川真理さん　軽妙トークと歌

加藤登紀子さん

マラソンランナーの谷川真理さんは、鮮やかなピンク色のスポーツウェアで登場した。現役時代から「おしゃれなランナー」を意識し、好みのウェアを着て爪にはマニキュア。「一人でも多くの人が走ってみたいと思ってくれたら」と考えていたという。

実践講座では、参加者に正しい歩き方をレッスン。骨盤から押し出すように足を踏み出し、ひじを90度にまげて後ろに引き、遠くを見て歩くと姿勢が整う、とアドバイスした。

林紗記撮影

本紙Ｒｅライフ面で「ひらり一言」を連載中の歌手加藤登紀子さんは、軽妙なトークと歌で会場を沸かせた。紙面で取り上げた言葉のなかで、印象に残っているものを紹介。例えば、「好きなことを、好きな人と、好きなように」は50歳のときに心に決めた言葉だという。「50歳を超えて頑張っている自分が想像できなくて、これからは好きなことしかしないって決心したんです。好きなことを好きにやろうと思ったら、すごく頑張れるね」

「無理かもしれない目標でも」

神足裕司さん登壇

トークショーに登壇した神足裕司さん（左）と妻の明子さん＝林紗記撮影

本紙Ｒｅライフ面でコラム「コータリンは要介護5」を連載中の神足裕司さんが車いすで現れると、大きな拍手が起こった。2011年秋にくも膜下出血で倒れ左半身にまひがあり、話すことが難しい。この日のために書いた三つのコラムが配られ、妻明子さんが日常について語った。

神足さんは昨年、大腸がんの手術後に京都旅行を決行。当初より入院期間が延びたものの、出発の数日前に退院した。コラムで「かわいい舞妓さんに囲まれて始終ニコニコ顔が止まらない」と当時の思いを表現。「ボクは無理かもしれない目標に向かっていくことによっていつも病気を克服している。それを許してくれる周りの人間たちにも感謝している」とつづった。

父親の介護もする明子さんは、気分転換について「夜中に友達とファミレスでお茶を飲む女子会。話を聞いてもらう友達がいることが大きい」と話した。

■その他の催し
【健康・スポーツ・美容】
秋本奈緒美さん　きょうもキレイ
髪からはじめるビューティライフセミナー
【娯楽・趣味】
柳家権太楼師匠　Ｒｅライフ寄席
映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」
チャリティー試写会
セットプルミエ　バイ　ケンゾータカダ
ファッション＆トークショー
「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」著者　詩歩さん
Ｒｅライフ世代におすすめする　世界の絶景
【生き方・生涯学習】
ファイナンシャルプランナー藤川太さん
「なるほどマネー」講座
仙台真田家13代当主真田徹さん講演会
「真田幸村　虚像と実像～幸村の子女達～」
タブレット講座
朝日自分史説明会

主催　朝日新聞社
協賛　イオンライフ、オリックス生命保険、花王、クリニコ、サントリー食品インターナショナル、西武・そごう、ダイソン、タニタ、鉄道会館、ノジュール、ブリヂストンスポーツ、三越伊勢丹通信販売、ヤマハ音楽振興会、ヨネックス、レディースアートネイチャー、ロングライド、ＪＴＢメディアリテーリング、ＮＨＫ学園、ＳＯＭＰＯケアネクスト　ほか
協力　沖縄県・沖縄観光コンベンションビューロー
◆この特集は福宮智代、長谷川陽子、坂井浩和が取材を担当しました。